

三菱ケミカル株式会社
中日本事業所
RCレポート

三菱ケミカル株式会社

中日本事業所

〒526-8660 滋賀県長浜市三ツ矢町5-8
TEL.0749-65-5111 FAX.0749-63-1141
三菱ケミカルホームページ
<https://www.m-chemical.co.jp/>

2023 Responsible Care Report

もくじ・編集方針



もくじ

もくじ・編集方針	1
ごあいさつ	2
中日本事業所(滋賀エリア)のご紹介	3
中日本事業所(滋賀エリア)が提供する製品	4
RC(レスポンシブル・ケア)活動	5
環境汚染予防・環境負荷低減	9
環境管理物質の削減	12
環境保全活動	13
循環資源・産業廃棄物管理	15
省エネ活動	17
労働安全衛生活動	19
緊急時対応	22
ものづくり活動	23
健康管理	25
ダイバーシティ・多様な働き方推進	26
社会貢献活動	27
社外コミュニケーション	29
大垣地区特集ページ	30
大垣地区について	31
大垣地区が提供する主な製品	32
大垣地区の環境安全活動、社会貢献活動	33
事業所・グループ会社紹介	34

編集方針

- 対象範囲
滋賀エリアRCサイト
(三菱ケミカル中日本事業所、MCCグループ会社6社、協力会社各社)
- 対象期間
2022年4月～2023年3月(一部2023年4月以降の情報も掲載しています)
- 目的と内容
このレポートは、三菱ケミカル中日本事業所、グループ会社及び協力会社の環境・安全に関する活動(RC活動)を、以下のみなさんにご理解いただけるようにまとめたものです。
(1)近隣住民のみなさん (2)行政のみなさん (3)近隣事業所のみなさん
(4)従業員とその家族のみなさん (5)中日本事業所に来場されるお客様
- 作成担当
環境安全部・設備技術部・総務管理Gr・企画管理部
- 公表媒体
冊子、三菱ケミカルホームページ



ごあいさつ

2020年より始まった新型コロナウイルス感染症も既に5年目となり、昨年5月から位置づけが2類相当から5類に緩和され、平常の生活が戻りつつあります。

弊事業所は三菱ケミカルグループの国内主要生産拠点として、皆様の生活に欠かせない製品を生産しているため、引き続き新型コロナウイルスを含む感染防止にも注意し、生産活動を維持・継続しております。

また、地球環境の急激な変化により世界中で多くの異常気象が発生しています。滋賀県内でもこれまでになかった異常な気象が発生していることを踏まえて、地域の皆様と共生できる事業所を目指し、環境保全・環境負荷低減活動と安全活動を統合したレスポンシブル・ケア(RC)※活動を推進しております。

2022年度も「労災ゼロ、保安事故ゼロ、環境事故ゼロ」を目標に掲げ、活動に取り組んでまいりました。

環境保全では温室効果ガス排出量の削減、省資源・省エネルギーの推進、大気や水・土壌などの汚染防止、廃棄物の発生抑制・再使用・再資源化の推進、自然環境保全活動、環境にやさしい製品の開発・製造など、事業活動のすべての過程において環境負荷の低減に努めました。

そして、サーキュラーエコノミー※の取り組みとしてお客様も含めた製品リサイクルの構築を検討しています。

労災保安事故対策では、リスクアセスメントの実施やRCパトロールでの危険箇所等の指摘・改善の実施、また、震災、火災を想定した緊急対応訓練にWEB技術を取り入れ、地区間の情報伝達等の強化や、防災マニュアルの点検を行い、防災対策の強化、迅速な情報公開への対応等の改善を図り、地域の皆様に安心いただける事業所づくりを推進しております。

さらに、地域の皆様と共同で行う清掃活動への参加や各種イベントの開催、また、次世代育成への協力として、近隣中学校の職場体験学習の受け入れや小学校への出前授業の実施など、今後も社会貢献活動に積極的に取り組んでまいります。

本レポートはレスポンシブル・ケア活動の状況について、皆様にご報告させていただき、事業所の活動をご理解いただくことを目的としております。ぜひご一読いただき、率直なご意見・ご指導を賜ることができれば幸いです。

最後になりましたが、三菱ケミカルの子会社および工場の運営を「エリア」として統合することとなり、昨年10月1日より、滋賀事業所と大垣工場は「中日本事業所」に名称を改めて統合いたしました。

滋賀・大垣を一つの事業所として一体運営することにより、両拠点の強みを掛け合わせ、ものづくり力のレベルアップを図り、それぞれの「人材」「ルールや仕組み」「技術」といった経営資産を、今後、互いに共有していくことでシナジーを創出させ、他に比類ない「輝くものづくり」の実現を目指したいと考えております。

これからも皆様から広く信頼され、親しまれる安全で安心な事業所となるよう努めてまいりますので、今後とも、ご指導・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



2024年1月
三菱ケミカル株式会社
中日本事業所長

兵頭 雅博

※ レスポンシブル・ケア(RC)とは

製品の開発・製造・使用・廃棄の全サイクルにおいて、健康・安全・環境に配慮することを経営方針のもとで公約し、自主的に環境安全対策の実行、改善をはかっていく管理活動です。

5ページ参照

※サーキュラーエコノミーとは

従来の「大量生産・大量消費・大量廃棄」のリニアな経済(線形経済)に代わる、製品と資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の再生を最小化した経済を「サーキュラーエコノミー(循環型経済)」と呼ばれています。



中日本事業所(滋賀エリア)のご紹介

中日本事業所(滋賀エリア)では、食品・医薬品などに使用される包装用フィルムから、最先端の情報電子材料用フィルムまで幅広く製造しています。皆様の身近で使用されている製品を提供することで、暮らしをKAITEKIにしていきます。



中日本事業所(滋賀エリア)が提供する製品

パッケージング・ラベル・フィルム



ポリエステル延伸ブロー容器
「PETボトル」

醤油、みりん、つゆ、たれ、ソースなどの各種調味料向けに使用される、透明度が高く、軽くて丈夫なペットボトルです。近年では、新製品のハイバリアボトルを開発しました。



ラベル用シュリンクフィルム
「DXL®フィルム」・「ヒシペット®」
「HybrexDL®」・「PLABIO®」

ペットボトルなどの食品やトイレットリー商品のラベルに使用される熱収縮性のフィルムです。収縮特性や透明性、光沢性に優れ、商品の個性をアピールし、差別化を図ることに適しています。



医療用防湿シート
「PTP用ビニホイル®」
「PTP用スーパーホイル®」

GMP(医薬品及び医療外部品の製造管理及び品質管理の基準)生産管理思想のもと生産された、高品質な医療品錠剤包装用シートです。



食品包装用ラップフィルム
「ダイアラップ®」

スーパーマーケットなどで販売されている生鮮食品のトレー包装や、レストラン、ホテル、飲食店向けのラップフィルムです。環境配慮型のポリオレフィン系多層ラップは、多くのお客様にご採用いただいています。



共押出多層フィルム
「ダイアミロン®」

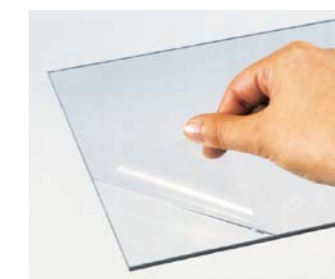
深絞り包装などに使用される、ナイロンなどの樹脂を共押出した多層フィルムで、高い透明性や光沢性、強度、ガスバリア性などを持っています。ハムやベーコンの包装をはじめ、医療器具包装、産業資材包装と幅広い分野で採用されています。

IT・エレクトロニクス・ディスプレイ



二軸延伸ポリエステルフィルム
「ダイアホイル®」

LCDバックライトの光学シートのベース、LCD部材の保護フィルム・離型フィルムの基材、タッチパネル、フレキシブル基板の部材、カード、ラベル、セラミックコンデンサ用離型フィルム(工程紙)、感熱転写用フィルム、包装用フィルムなどに広く使用されています。



光学用透明粘着シート
「クリアフィット®」

タッチパネル型液晶ディスプレイの保護パネルとディスプレイの空隙部に充填する、境界面の屈折率差による光のロス小さくして視認性を向上する透明粘着シートです。



「スペリオ® UT」
携帯電話のスピーカー振動板などに使用される高耐熱エンブラフィルムです。



「ヒシチューブ®」
コンデンサーや電池の被膜材として使用されています。

RC (レスポンシブル・ケア) 活動

レスポンシブル・ケアとは

化学品を取り扱う企業が、製品等の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行う活動のことで、この活動を『レスポンシブル・ケア (Responsible Care) 』と呼んでいます。

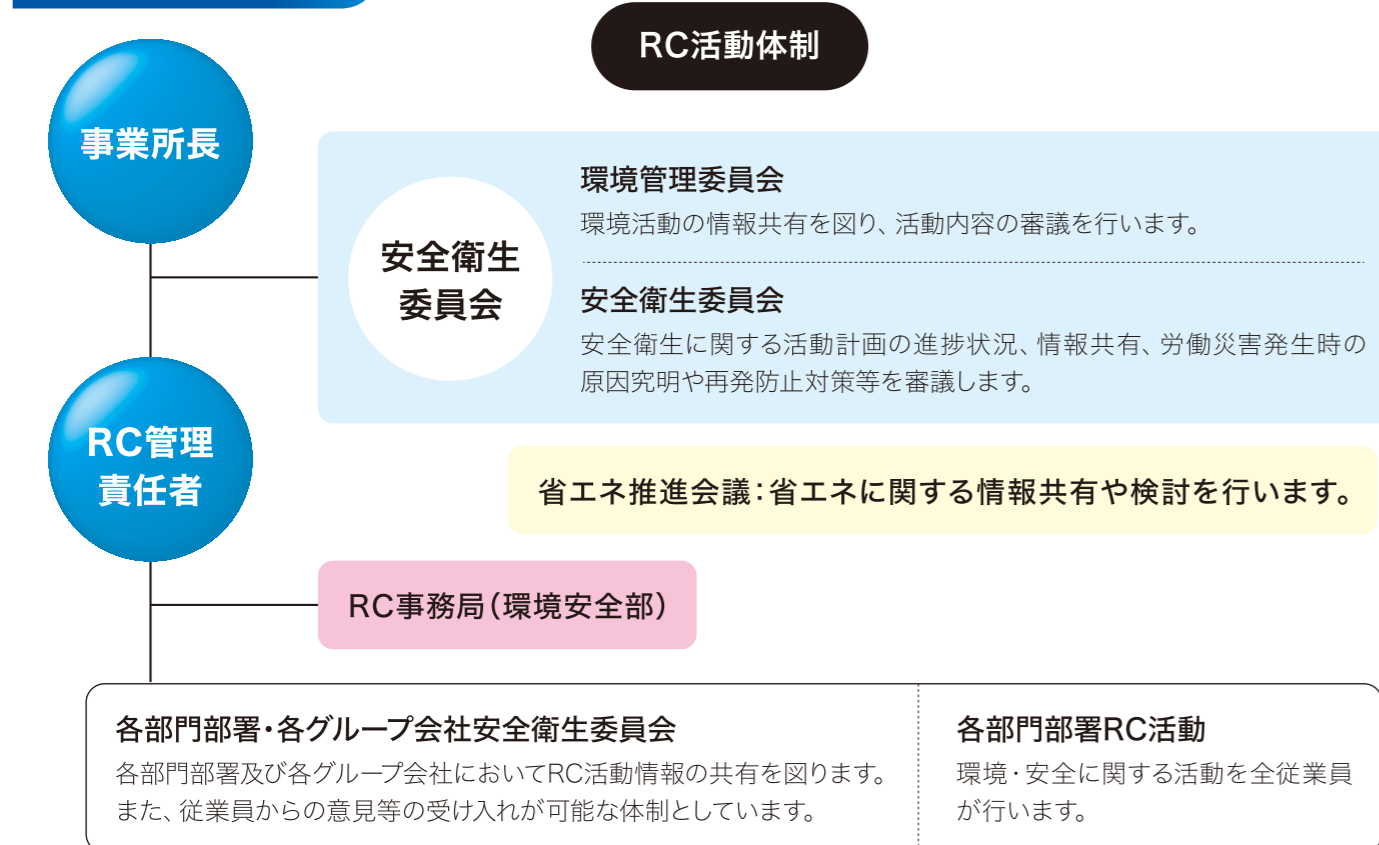
湖北地区三菱ケミカルグループRC方針

湖北地区三菱ケミカルグループは、プラスチック製品の開発及び製造等の事業活動において、常に環境負荷の低減に積極的に取り組み、情報公開、ならびに地域・社会への貢献を通じ、地域・社会から愛されるKAITEKI事業所の実現と、従業員とその他関係者の安全と健康を確保し、災害ゼロの実現に向け行動する。

1. 事業活動ならびに生産する製品が環境に与える影響を的確にとらえ、環境負荷の低減に努める。
2. 環境及び労働安全衛生に関する法令、その他要求事項を順守することはもとより、環境汚染の予防、負傷及び疾病の予防に努める。
3. 危険源を除去し、労働安全衛生リスク低減に努める。
4. 技術的、経済的に実現しうる具体的な目的及び目標を設定し、環境管理・安全衛生管理の組織、制度及び責任体制を明確にし、RCマネジメントシステム及び、環境と労働安全衛生パフォーマンスの継続的な改善に努める。
5. 関係する総ての人に、環境負荷の削減及び労働安全衛生の確保に必要な教育、訓練を実施し、各自の責任の自覚と行動できる人材の育成に努める。
6. 地域・社会からの理解と信頼向上のため、地域・社会との積極的なコミュニケーションに努める。

中日本事業所とグループ会社、協力会社で一体のRC方針としています。

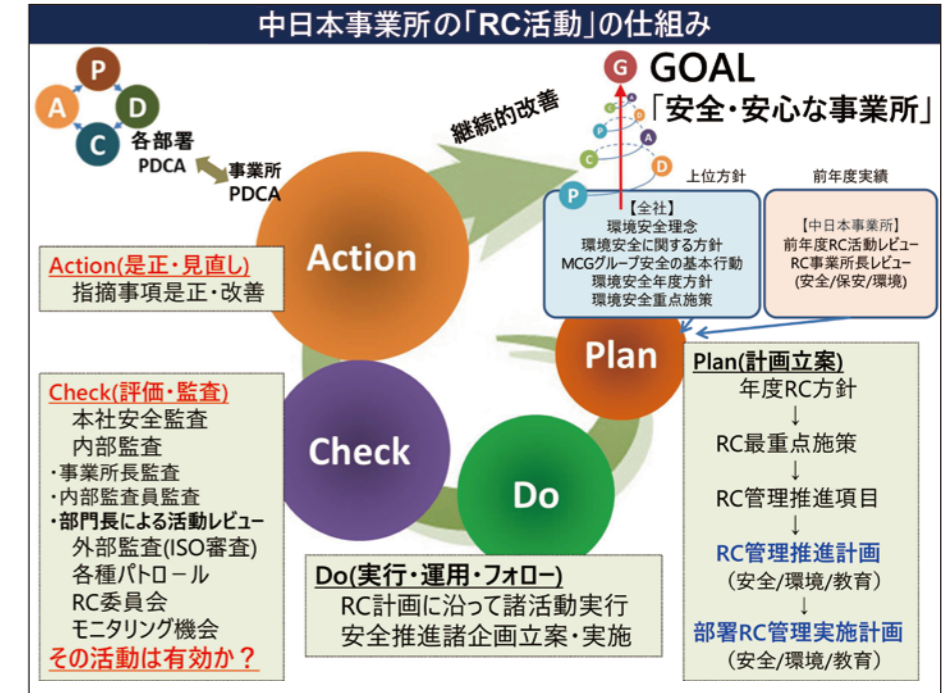
RC活動体制



RCマネジメントシステムと活動体制

湖北地区三菱ケミカルグループでは、1999年よりISO14001の認証を取得、継続しています。

また、労働安全衛生マネジメントシステムは、2020年度にOHSAS18001からISO45001へ移行しましたが、現在は、独自の労働安全衛生マネジメントシステムに移行し、ISO14001と合わせて、RCマネジメントシステムとして取り組んでいます。



環境マネジメントシステム

外部認証機関 (第三者機関) の認証を取得しています。



ISO14001登録証

活動組織: 2023年12月現在

- 三菱ケミカル(株)中日本事業所 長浜地区、浅井地区、山東地区
- 三菱ケミカルインフラテック(株)長浜事業所
- 三菱ケミカル物流(株)中日本支社 (滋賀)
- ダイヤリックス(株)滋賀地区
- ジェイフィルム(株)長浜工場
- (株)菱湖テクニカ
- (株)北菱モールド

労働安全衛生マネジメントシステム

社内の統合RCマニュアルに沿って運用しています。

RC内部監査、部門長による定期レビュー等の場で活動の適合性・有効性を確認・改善しています。

RC (レスポンシブル・ケア) 活動



2022年度 RC活動の実績

区分	項目	ありたい姿	活動項目	目標	活動実績	評価
環境	環境リスクの低減	法令違反がない事業所	・法令改正情報の入手と周知 ・法令順守チェックの実施	法令違反なし	・法規制等一覧表を最新版管理し、2回/年の法令順守チェックを実施した ・法令順守違反はなかった	○
		環境基準違反がない事業所	・環境データのモニタリング ・排水、地下水のモニタリング	環境基準違反なし	・敷地境界にて環境基準超過はなかった	○
		環境意識の高い事業所	・環境関連教育・講習会の実施 ・法令条例の周知、浸透 (ワンポイント教育資料公開・伝達教育実施)	環境法令の教育を行う 環境関連の講習会を開催する 環境関連資格の取得を推進する	・大防法(石綿則)関連の講習会を実施した ・廃棄物講習会を実施した ・公害防止管理者7名、特別管理産業廃棄物管理責任者38名取得	○
	環境負荷の低減	環境事故リスク低減を推進する事業所	・環境リスク評価、対策の実施 ・環境パトロールの実施	水害浸水リスク評価、対策の検討・実施を行う 毎月1回(3地区輪番)で環境パトロールを実施する	・浸水深測量を実施し、浸水深の表示看板設置への検討を実施した ・3地区各4回、環境パトロールを実施した	○
		省エネルギーを推進する事業所	・省エネルギー機器の導入・更新、その他改善活動によるエネルギー使用量の削減	原油換算で対前年度1%削減	原油換算で対前年度2.0%(1,918kL)削減した	○
		廃棄物の再資源化を推進する事業所	・廃棄物の分別徹底により、単純焼却+埋立廃棄物比率を削減する	$\frac{\text{単純焼却+埋立廃棄物}}{\text{総廃棄物}} = 0.1\% \text{未滿}$	0.09%(長浜地区:0.03% 浅井地区:0.06% 山東地区:0.14%)	○
環境への貢献活動	地域環境に貢献する事業所	・淡海エコフオスター活動の推進 ・びわ湖一斉清掃への参加	月1回、周辺清掃活動を行う 琵琶湖一斉清掃に35名参加する	・エコフオスター活動を毎月(年間12回)実施した(延べ280名) ・7月1日開催のびわ湖一斉に38名が参加	○	
安全	安全の基本の徹底	安全の基本行動、安全の基本操作が徹底されている、事故労災の無い事業所	・安全の基本行動の周知・徹底 ・各部署及び事業所共通の安全基本操作の設定と、周知・徹底	滋賀事業所共通基本操作を設定して、事業所内へ周知を行う。	滋賀事業所共通基本操作として「重量物取扱い作業」「締め付け工具取扱い作業」「クレーン・玉掛け作業」「フォークリフト作業」を設定し、周知した。また、事業所安全監査で周知、徹底状況を確認した。	○
	危険源の洗い出しと、その対策による設備の本質安全化の推進	設備の本質安全化により、事故労災を未然に防止する事業所	・事故労災の水平展開の迅速な実施 ・事業所安全監査による進捗確認とアドバイス	設備の本質安全化により事故・災害を未然に防ぐ	・挟まれ巻き込まれ対策の進捗について事業所監査で計画通りの進捗を確認した	○
	事故労災の再発防止	真因が究明され、水平展開が徹底され、類似の事故労災を起こさない事業所	・VTA/なぜなぜ分析の活用による真因究明 ・他部署、他場所の事故労災の水平展開	確実な真因の究明 確実な水平展開	・労災の発生毎にVTA/なぜなぜ分析を活用し、真因究明を実施した ・1件の事故労災の水平展開を実施した	○

RC内部監査の実施

RCマネジメントシステムの有効性と適合性を評価する内部監査を毎年実施しています。2022年度のRC内部監査では、改善指摘事項が2件発見されましたが、速やかに改善対応を実施しました。また、改善の機会は23件、グッドポイント(優良な活動事例)は57件という監査結果でした。

優良な活動を各部署に水平展開することで、地域の皆さんから「安全」「安心」な事業所と評価いただけるよう取り組みを推進していきます。

分類	改善指摘事項	改善の機会	グッドポイント
三菱ケミカル滋賀エリア	2	14	47
グループ会社	0	9	10
合計	2	23	57

環境マネジメントシステム外部審査

2022年11月に、認証機関による環境マネジメントシステムの定期審査を受審し、環境マネジメントシステムは認証継続されました。

分類	改善指摘事項	改善の機会	グッドポイント
三菱ケミカル滋賀エリア	0	11	2
グループ会社	0	1	2
合計	0	12	4



外部機関による審査風景

環境汚染予防・環境負荷低減



滋賀エリアでは、環境汚染予防、環境負荷低減を図るため、主に次のような設備を備えています。

長浜地区

排水処理施設

事業所の排水は、排水処理場で浮上・沈降による分離除去、また、監視機器による常時監視を行っています。万が一のトラブルに備え、排水堰で排水を止めることができます。



VOC処理施設

生産時に発生する揮発性有機化合物 (VOC^{*}) の大気排出量を削減するため処理施設を設置しています。環境負荷の低減に貢献しています。



※VOC (Volatile Organic Compounds) とは…揮発性有機化合物の総称。大気中に放出されると、公害等の健康被害を引き起こす恐れがあり、排出量の抑制に向けた自主的取り組みが求められています。

廃棄物集積場

地区内の廃棄物は、廃棄物集積場に集積しています。事業所のルールに従って分別された廃棄物は委託業者に運搬し、適正処理を図っています。



側溝監視機器

側溝に油膜検知器、濁度計等の監視機器を設置。排水異常の早期発見に役立っています。



流出防止堰

緊急時に場外への流出を防止するため、堰を設置しています。



浅井地区

排水処理施設

地区内の排水は、排水処理場で浮上・沈殿による浮遊物や泥の除去をしています。また、機器による水質監視のほか、定期的に採水分析を行っています。



廃棄物集積場

地区内の廃棄物は、廃棄物集積場に集積しています。事業所のルールに従って分別された廃棄物は委託業者に運搬し、適正処理を図っています。



太陽光発電システム

2014年6月から使用開始し、日最大250kWを発電できます。昼間の電力使用ピーク低減とCO₂排出抑制に貢献しています。



水路堰

地区排水路の複数の箇所に堰を設置し、万が一の排水トラブル発生時には、堰を閉め、場外への流出防止を図ります。





山東地区

排水路の堰

水路に設置された堰で異常排水を堰止めし、異常の内容に応じた処置を行っています。



排水路の観測機器

水路に設置された油膜検知器や濁度計等で24時間連続監視し、異常排水を検知した際は緊急対応を行います。



地下水の観測井戸

敷地境界3カ所に設置された観測井戸から年1回、採水した地下水を検査しています。

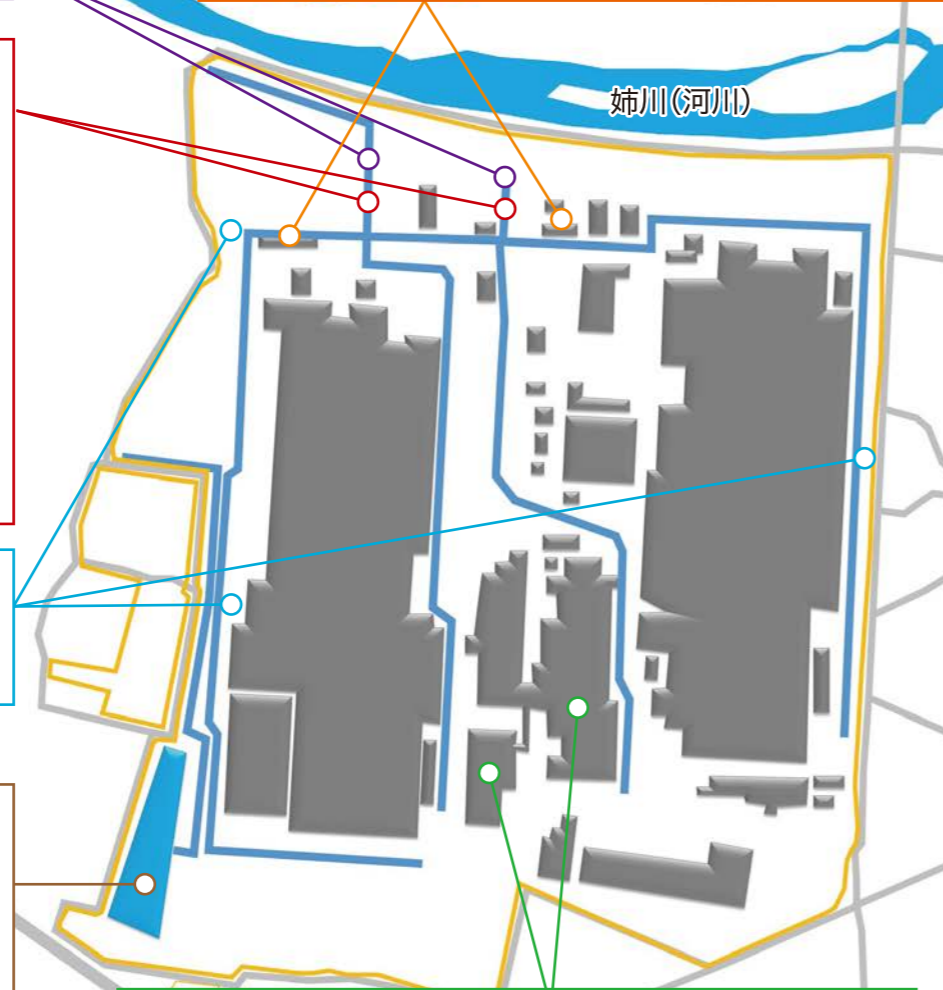
豪雨氾濫時の調整池

集中豪雨時の雨水を一時的に貯水し、徐々に放流できる調整池を有し、河川氾濫の抑止を行っています。



廃棄物の処理

場内で発生した廃棄物は、リサイクル資源として分別し、委託契約業者で適切に処理しています。



VOCの処理施設

生産時に発生する揮発性有機化合物 (VOC*) の大気排出量を削減するため処理施設を設置しています。環境負荷の低減に貢献しています。

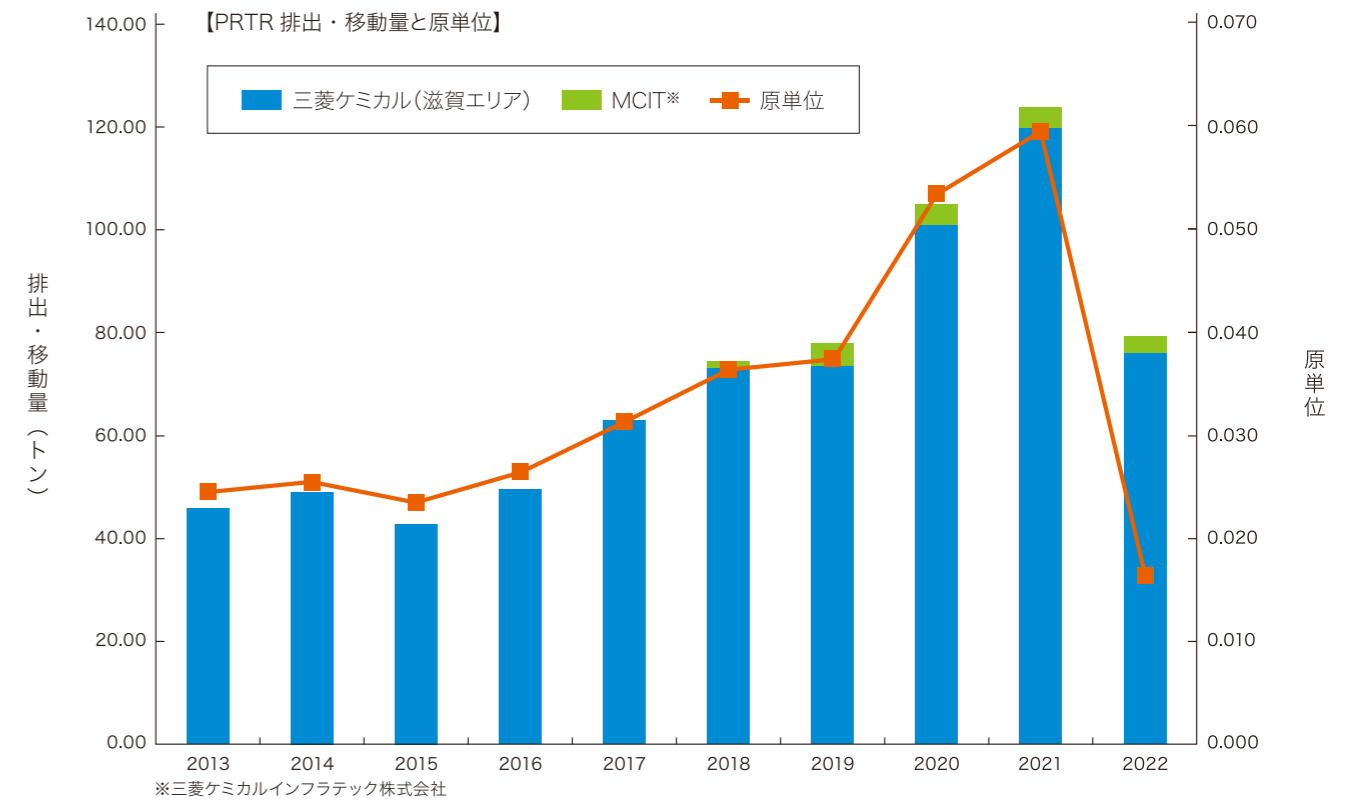
※VOC(volatile Organic compounds)とは…
揮発性有機化合物の総称。大気中に放出されると、公害等の健康被害を引き起こす恐れがあり、排出量の抑制に向けた自主的取り組みが求められています。



PRTR物質の管理

PRTR法対象の462物質について、年1kg以上取り扱う物質を集計管理し、そのうち年1トン以上(特定第1種指定化学物質の場合は0.5トン以上)の取り扱い物質については、地区単位で所管行政に届出を行っています。

現在取り扱っている有害化学物質は、無害物質への置き換えや、使用料の削減、紛失防止、環境事故予防防止など、環境(人体)への被害抑止に努め、また適正に廃棄処理を行っています。これまで、六価クロムや鉛など、有害物質の使用を廃止するために、種々の対応を行ってまいりました。管理物質の使用量は、生産量の変動を受け変動していますが、今後も適正に管理や対応を行い、引き続き環境負荷の低減に努めてまいります。



【PRTR 物質排出・移動量】

物質名	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
亜鉛の水溶性化合物	—	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
アンチモン及びその化合物	1.95	1.87	1.92	1.87	1.92	1.66	1.30	1.48	4.09	3.42
キシレン	5.15	5.54	4.66	2.08	0.77	0.78	2.90	1.96	0.12	0.07
2・6-ジターシャリ-ブチル-4-クレゾール	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.04	0.03	0.02
有機スズ化合物	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.28	0.26	0.22	0.02	0.02
1,2,4-トリメチルベンゼン	1.21	0.92	0.05	1.08	1.07	1.66	1.00	0.98	1.05	0.93
1,3,5-トリメチルベンゼン	0.34	0.26	1.14	0.30	0.31	0.30	0.28	0.28	0.30	0.26
トルエン	36.29	39.30	33.37	43.21	58.83	67.58	67.88	95.57	118.40	74.50
ナフタレン	0.13	0.10	0.08	0.11	0.11	0.12	0.13	0.13	0.13	0.12
鉛及びその化合物	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.27	0.23	0.19	0.54	0.18	0.50	0.51	0.34	0.13	0.12
無水フタル酸	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
メチレンビス(4,1-フェニレン) = ジイソシアネート	0.00	0.39	0.54	0.00	0.00	0.02	0.01	0.01	0.40	0.36
モリブデン及びその化合物	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01	0.01	0.00	0.40	0.36
りん酸トリトリル	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.05	0.04	0.03	0.03

環境保全活動



滋賀エリアでは、周辺の緑豊かな環境と調和した事業所を目指し、環境保全活動に取り組んでいます。ここでは、滋賀エリア2022年度の主な環境測定データと環境保全活動の結果をご報告いたします。

1. 環境測定データ

● 水質

測定項目	単位	規制値	自主基準値	長浜地区		浅井地区		山東地区	
				測定値 (最大値)		測定値 (最大値)		測定値 (最大値)	
				2021	2022	2021	2022	2021	2022
pH (水素イオン濃度)	-	6.0～8.5	6.4～8.4	7.9～8.2	7.8～8.0	7.6～7.8	7.6～7.8	7.7～8.3	7.9～8.3
BOD (生物化学酸素要求量)	mg/L	20	10	1.5	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
COD (化学的酸素要求量)	mg/L	20	10	2.2	2.3	2.1	2.3	2.2	2.0
SS (浮遊物質)	mg/L	70	35	1	1	不検出	不検出	1	1
n-ヘキサン抽出物	mg/L	5	2	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
全窒素	mg/L	8	4	1.4	0.94	0.88	0.61	2	1.6
全リン	mg/L	0.8	0.4	0.07	0.06	不検出	不検出	0.08	0.06
大腸菌群数	個/mL	3,000	1,500	710	133	34	20	5	22
トリクロロエチレン	mg/L	0.1	0.01	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.4	0.04	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	1	0.1	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
1,4-ジオキサン	mg/L	0.5	0.05	不検出	不検出	不検出	不検出	0.006	0.020

● 騒音

測定位置・時間	単位	長浜地区				浅井地区				山東地区			
		規制値	自主基準値	測定値 (最大値)		規制値	自主基準値	測定値 (最大値)		規制値	自主基準値	測定値 (最大値)	
				2021	2022			2021	2022			2021	2022
敷地境界(東)・夜間	dB	55	50	47	49	60	55	47	48	60	50	50	49
敷地境界(北)・夜間	dB	55	55	53	54	60	55	55	55	60	50	54	53
敷地境界(西)・夜間	dB	55	55	47	49	60	55	45	50	60	50	48	48
敷地境界(南)・夜間	dB	55	50	51	49	60	55	47	49	60	50	50	46

● 振動

測定位置・時間	単位	長浜地区				浅井地区				山東地区			
		規制値	自主基準値	測定値 (最大値)		規制値	自主基準値	測定値 (最大値)		規制値	自主基準値	測定値 (最大値)	
				2021	2022			2021	2022			2021	2022
敷地境界・昼間	dB	65	50	35	38	70	65	53	53	65	50	37	45
敷地境界・夜間	dB	60	45	32	37	65	60	54	57	60	45	37	43



振動測定



騒音測定

● 大気(長浜地区)

対象設備	測定物質	単位	規制値	自主基準値	測定値 (最大値)	
					2021	2022
ガスボイラー	窒素酸化物	ppm	150	100	45	37
	ばいじん	mg/Nm3	100	80	不検出	5
加熱炉(ガス)	窒素酸化物	ppm	230	180	41	52
	ばいじん	mg/Nm3	200	160	9	9
集塵機	粉じん	mg/Nm3	-	10	6.6	2.9
	鉛	mg/Nm3	3	0.3	0.004	不検出

● 大気(山東地区)

対象設備	測定物質	単位	規制値	自主基準値	測定値 (最大値)	
					2021	2022
ガスボイラー	窒素酸化物	ppm	150	120	97	87
	ばいじん	mg/Nm3	100	80	10	5
灯油ボイラー	窒素酸化物	ppm	180	180	65	61
	ばいじん	mg/Nm3	300	240	4	不検出
VOC 処理施設	揮発性有機化合物	ppm	600	480	201	161

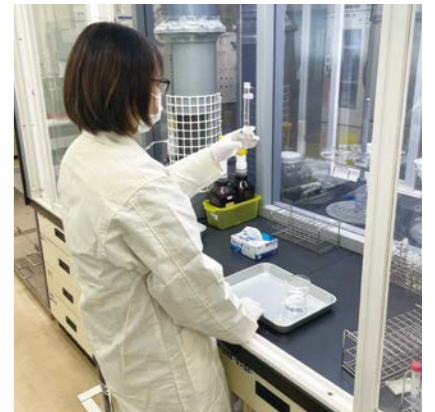
2. 環境保全活動

環境モニタリング

大気、水質、騒音、振動、臭気の状態を定期的にモニタリングし、環境汚染の予防、環境負荷の低減、環境保全等の維持管理に努めています。2022年度の測定結果はいずれも、良好であることを確認しています。



環境モニタリング 地下水採水



分析業務

淡海エコフオスター活動

滋賀県が主催する淡海エコフオスター活動、びわ湖・余呉湖一斉清掃に参加しています。淡海エコフオスター活動は毎月第三水曜日に長浜地区周辺の生活道路の清掃活動を行っています。2022年度は延べ280人がこの活動に参加しました。

今後も近隣道路の清掃活動や美しいびわ湖の維持活動に貢献していきます。



淡海エコフオスター活動



循環資源・産業廃棄物管理

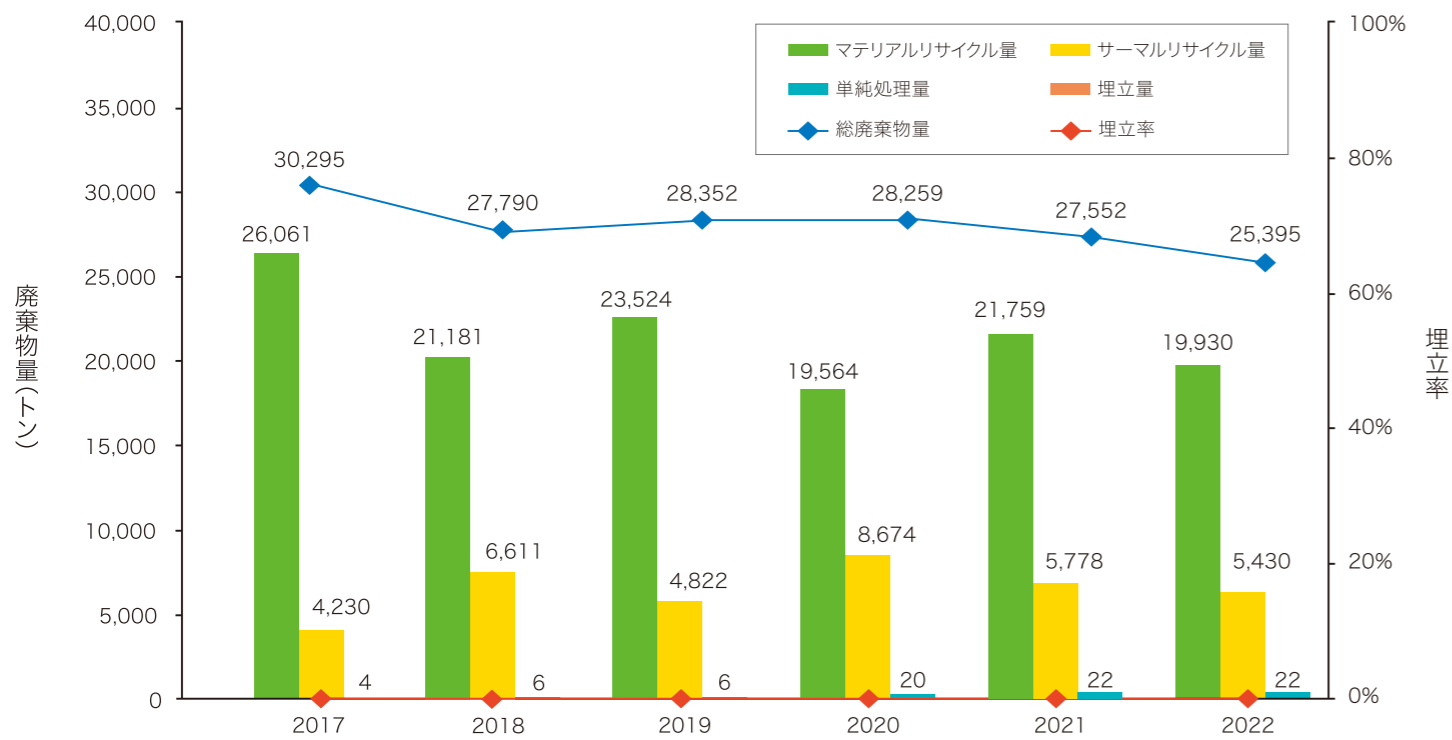


省資源活動の実績

2022年度の生産活動による総廃棄物量は、滋賀エリア3地区で25,395トンでした。2021年度と比較して2,157トンの減少となり、原単位は15.8%でした。埋立廃棄物量は「ゼロ」を継続し、再資源化率は99.9%となっています。

これからも、歩留改善活動の取り組みや生産技術改善などの研究・開発を継続的に行い、廃棄物の削減に取り組むとともに、廃棄物の分別も徹底し再資源化を継続することで、省資源化を推進していきます。

【廃棄物量と埋立率の推移】



※2020年度の集計より分社化した三菱ケミカルインフラテック(長浜)を含む。

- サーマルリサイクルとは 廃棄物の焼却の際に発生する熱エネルギーを回収し再利用すること。
- マテリアルリサイクルとは 廃棄物を原料として再生利用すること。



回収



受入・計量



保管

産業廃棄物の適正処理の確認・監査(現地確認)

産業廃棄物処理委託業者の現地確認を、年一回実施しています。実際の処理施設で廃棄物の受入から処分までの各工程を視察し、廃棄物が確実に処理されている状況を確認するとともに、法律に基づく書類の整備・保管状況や工場の操業状態など、独自のチェックシートを使用し確認しています。

2022年度は、前年度から始めたパソコンやスマートフォンを使用したリモート監査を積極的に採用し、記録の確認や処理施設の状況調査で適切に処理されていることを確認しています。



現地確認

廃棄物処理講習会

毎年1回実施している廃棄物処理講習会を、2022年12月に実施しました。特に事業所で発生している分別不具合の実例などを紹介し、再発防止を含めた教育を行いました。

また、2022年度は廃棄物の排出先の変更と、それに伴う分別の運用変更を行っているため、各部署の廃棄物の推進者向けの説明会を9月にも実施し、分別管理の強化を図っています。



廃棄物処理講習会

環境関係の管理者資格取得の推進

滋賀エリアでは、各部署のスタッフが環境法令をさらに理解し、自部署の管理業務を適切に推進するため、環境に関係する資格取得を推進しています。

環境法令で必要となる「公害防止管理者」「特別管理産業廃棄物管理責任者」を推奨資格と定めて毎年取得者を募集し、資格取得者を増やし、事業所の環境管理の向上に役立てています。

【取得者推移】

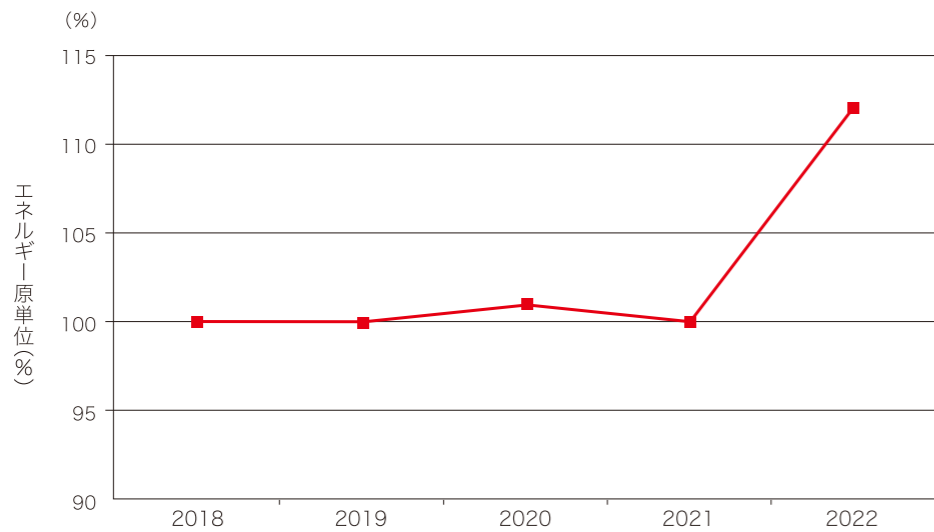
資格区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
公害防止管理者(大気関係)	4名	2名	2名	1名	2名
公害防止管理者(水質関係)	2名	3名	1名	3名	5名
特別管理産業廃棄物管理責任者	34名	19名	11名	38名	38名

省エネ活動



滋賀エリアでは各部署に省エネ推進者を設け、日々全員参加型の省エネ活動を推進しております。
 設備更新の際は高効率型への置き換えを基本とすることや、エネルギー可視化システム活用し、自部門の使用エネルギー量を誰でも簡単に確認できる環境を構築し、僅かなエネルギーロスも早期に発見する取り組みを行っております。
 過去4年間のエネルギー原単位の推移状況は横ばいでしたが、昨年度は生産量が減少したためエネルギー原単位は悪化となりました。

【滋賀事業所 エネルギー原単位推移】

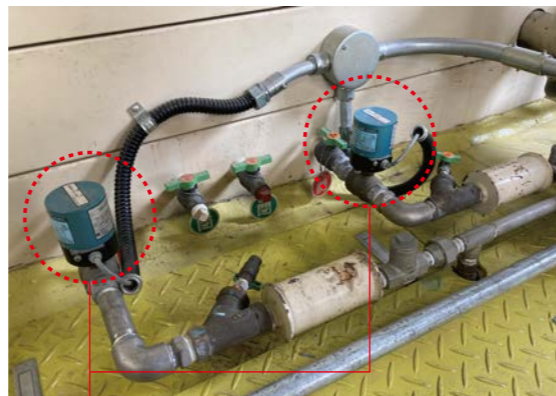


圧縮空気ロス削減

長浜地区では複数台のコンプレッサにて各製造現場に圧縮空気を常時供給しています。

制御方式は台数制御にて最適運用を実施し省エネを図っておりますが、さらなる圧縮空気ロス削減に取り組みました。

コンプレッサは空気の圧縮・冷却に際して水が発生します。水が機内に滞留するとトラブルの原因となるため、常時エアパージにて排出しますが待機状態時にも同様にエアパージを行っているため対策を実施しました。エアパージラインに電磁弁を追加し、コンプレッサ運転信号を電磁弁制御に組み込むことで、待機状態時によるエアパージを無くし無駄な圧縮空気を削減しました。



電磁弁追加

待機状態 → 常時閉
稼働状態 → 常時開

削減効果

383,571 Nm³/年
(10.9kl/年)

ユーティリティの遠隔監視による省エネ

浅井地区では、ユーティリティの遠隔監視を拡張し可視化することによって省エネ活動に役立てています。例として本年、配電盤の電力量計を通信機能搭載付のデジタル指示計器に更新しました。更新後は電圧、電流、電力等のデジタルデータを収集して監視することができるようになりました。

今後無駄なエネルギーを発見して更なる高効率運転を実現していきます。



更新前

更新後

高効率変圧器

山東地区では順次老朽化した変圧器を高効率(トップランナー)変圧器へ計画的に更新しています。

変圧器設置から数十年経過していることで、導入当初に比べ現場の負荷状況も大きく変動しているため、変圧器更新の際には現状の負荷状況を事前に調査し、最適な変圧器の再編・統合を合わせて実施しています。

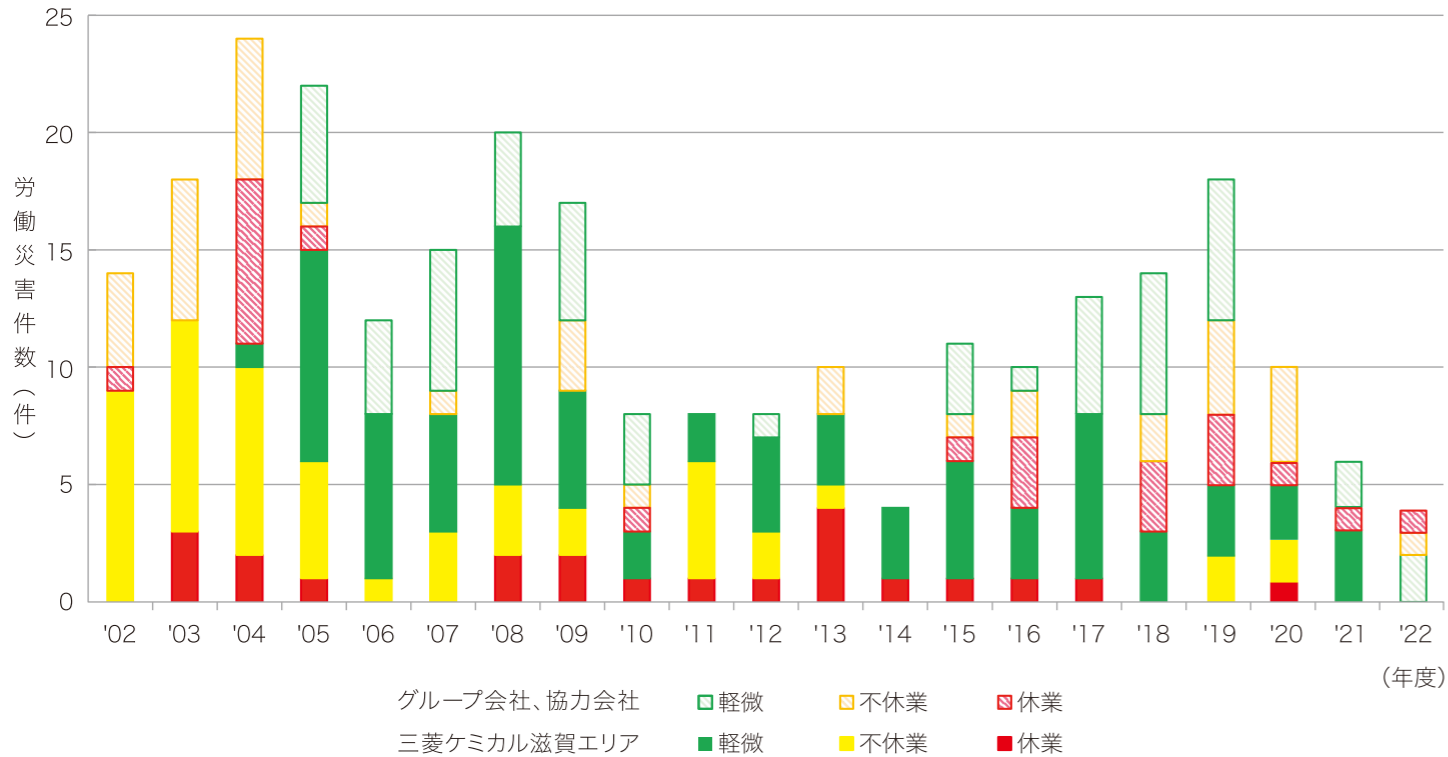
昨年度は高効率変圧器(4台)更新にて、年間約77,656kWh、19.4kl相当の削減を達成しました。



労働安全衛生活動

安全成績

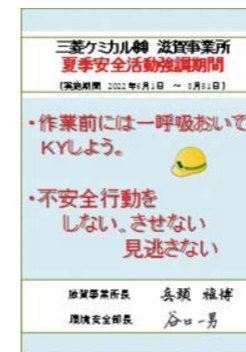
2022年度の滋賀エリア（グループ会社・協力会社含む）の労働災害は、休業災害1件、不休業災害1件、軽微な災害が2件の合計4件でした。三菱ケミカルとしましては、ゼロ災害の結果となりました。2023年度も、安全管理の徹底および安全文化向上のため、各部署で安全討議を実施、継続することでゼロ災害を目指します。



夏季安全活動強調期間活動

暑くなる期間は、危険に対する意識が希薄となり、「うっかり」、「ぼんやり」といったヒューマンエラーの出やすい時期であり、熱中症のリスクも高いことから、夏季の災害を防止するため、2022年度は、6月1日～8月31日(3ヶ月間)を夏季安全活動強調期間とし、下記の啓発活動を実施しました。

1. 事業所長による「実施宣言」の発信
2. 啓発ポスター・横断幕の掲示
3. 従業員個人の「安全の誓い」を毎日見られる場所に掲示
4. 熱中症予防の職場内啓発
5. 「安全について考える日」7月11日 開催し、社長メッセージを放映、事業所長の安全講話を「オンライン配信」し、後日「ビデオ配信」を実施
6. 各勤務出勤者に対する安全5則声掛け立哨を3地区毎に実施
(立哨では、服装の乱れや指差呼称のやり方、階段での手摺持ち等の愛の助言を実施しました)



啓発ポスター



事業所長 安全講話の様子



立哨の様子

「安全について考える日」(全社安全大会)

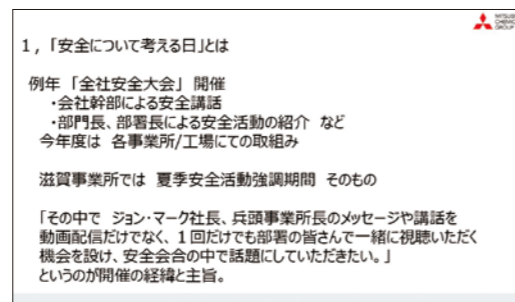
例年、7月に安全大会を実施していましたが、2022年度は7月に組織改編があり全社同日の開催とせず、まずは同月にMCGグループとして本社で安全大会を実施され、また各事業所においては「安全について考える日」を設けることとなりました。

滋賀エリアでは2022年7月11日に「安全について考える日」を実施し、環境安全部長の趣旨説明から始まり、ジョンマーク社長のメッセージや事業所長の安全講話を公開し、安全意識を高めることができました。

安全について考える日は、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、リモート中継のみとしましたが、後日安全について考える日の録画を配信することで、グループ会社を含め、管理・監督者をはじめとする全従業員が、今後の無災害への意識を高めることができました。



安全について考える日



安全について考える日とは

安全教育(雇入れ時/フォークリフト、クレーン/リーチフォークリフト)

労働安全衛生法に基づき、雇入れ時の安全教育の実施や5年毎に「フォークリフト運転業務」、「玉掛け業務」、「クレーン業務」に従事する従業員を対象に、各業務の安全衛生教育を受講しています。



雇入れ時の安全教育



玉掛け業務従事者安全教育

資格取得支援

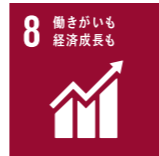
生産現場で使用する「フォークリフトの運転」や「クレーン操作」「玉掛け作業」は、一定の資格が必要な業務であり、他にも、危険物・有害物を取り扱う業務や、ボイラー・プレス機等の設備を取り扱う業務なども個別の資格が必要となります。

それら必要な資格の取得と技能向上を図るため、環境安全部では、外部団体との調整から講習受講・免許取得までを積極的に支援しています。



安全管理者選任時研修

労働安全衛生活動



安全推進委員活動

滋賀エリアでは安全活動の一環として、安全推進委員活動を行っています。この活動は、安全文化の構築を目指すため、「安全を優先する人づくり」への取り組みです。長浜地区の活動でしたが、2021年度より浅井地区、山東地区にも活動を広げ、滋賀エリア全体で取り組みを開始しています。

主な活動は、「安全先取りパトロール」「立哨活動」及び「教育活動」です。安全先取りパトロールでは一連の作業で人の行動や物の状態を観察し、その中で当該部署が気づきにくい危険な行動や危険な状態を抽出し、ハード対策はもとより、人の意識の向上に繋がれるような対策を検討し、実践できるよう取り組んでいます。立哨活動では、出勤時の挨拶運動や、服装ルールや構内通行速度順守の声掛け等の積極的なコミュニケーションで、従業員一人ひとりがルールを守る風土作りを行っています。教育活動では、幅広い知識を身につけ、如何なる場合でも対応できるスキルの取得と向上を目指しています。

これらの活動の全てが「学びの場」となって、人づくりに役立っています。



安全先取りパトロール(長浜地区)



立哨活動



教育活動

KYスキル評価

2022年9月に、滋賀エリア全従業員を対象とした2回目の「KYスキル評価」を実施いたしました。

KYスキルとは、担当する業務での危険感受性の向上により、安全に作業する技能です。「安全の先取り活動」として危険(K)を予知(Y)できる人になるための訓練を行っています。内容は、写真の例題に対し、「危険要因」(不安全状態と不安全行動)を多く、正しく抽出することで、安全に対する意識を向上させる取り組みを推進しています。この活動は今後も継続し、ゼロ災害事業所を目指してまいります。



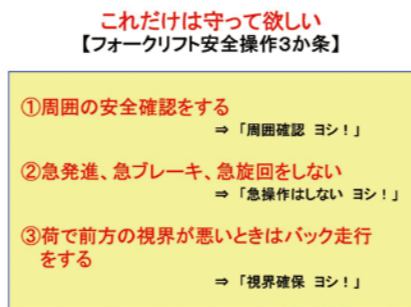
2022年度 KY スキル評価題材

安全の基本操作の制定

安全の基本操作とは、要領書等を見なくても安全に操作や取扱うことができる最低限身につけておかなければならない技量です。指示・注意されなくとも自然とできる所作、基本操作を確実に身につけ、行動面の災害防止を目的としています。

事業所では様々な作業を行っておりますが、2022年度は、重量物取扱・締め付け工具の取扱・クレーン玉掛け操作・フォークリフトの操作について、これだけは守ってほしい基本操作3か条を制定し、周知を行っています。

今後も頻度の高い作業について制定し、ゼロ災害職場を目指してまいります。



フォークリフト基本操作3か条

緊急時対応



事業所の浸水リスク対策

滋賀エリアでは、浸水リスク対策として事業所内の水害時の浸水深の測量を行い、事業所のどの地点が浸水リスクが高く、対策が必要なのかを数値化しました。

この結果を踏まえて、水害時に原料等が流出しない・させない対策を検討しています。



事業所内の測量点



浸水深看板



浸水深看板設置

環境事故対応

滋賀エリアでは、駐車場で環境事故発生に素早く対応するため、各駐車場に液体吸着シート、液体吸着材、油吸着材の環境事故対応資材を設置しています。



看板



設置場所



環境事故対応資材 BOX

緊急時対応訓練

地震、火災、緊急時の発生に備え、緊急事態対応訓練を定期的実施しています。2022年度も総合震災訓練及び火災訓練を行い、緊急事態発生時の対応手順を確認しました。万が一の緊急事態にも、迅速・的確な対応ができるように訓練の継続と対応設備等の整備を進めています。



現場対策本部の様子

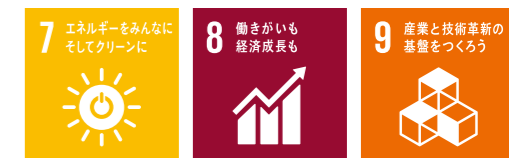


救助訓練



消火訓練

ものづくり活動



ものづくり強化

輝くものづくり滋賀25

2021年4月からスタートした事業所中期経営計画「輝くものづくり滋賀25」の後半に向けてアクションプランを策定し、輝き続ける中日本事業所 (KAITEKI事業所) の実現に向けて、ものづくり革新活動を進めております。



中期経営計画ポスター

レオの会

事業所長と従業員が対話する場「レオの会」を開催しています。「明るく、元気に、チャレンジ」をモットーに、製造オペレーターや事務所スタッフ5～6名と兵頭事業所長が、日頃思っていることや感じていることなどをざっくばらんに語り合っています。



「レオの会」
マスコットキャラクター

オペレーター見学会

「レオの会」で、製造オペレーターからあがってきた意見に「他の製造現場を見たい」という要望があり、「運転員見学会」が企画開催しました。

普段見られない他部署の生産ラインの見学に、多くの参加者から「参加できてよかった」「参考になった」という声が聞こえてきました。



小集団活動

コロナ禍のため、リモート発表が続いていましたが、久しぶりにサークルメンバーや事業所幹部メンバーが会場に集まり、報告会・発表会を開催しました。各サークルの改善内容の発表に聞き入り、質疑応答が活発に行われ、大盛況となりました。参加したサークルメンバーからは「対面で発表できてよかった」「ほかのサークルの発表を直接聴けてよかった」という意見がありました。



ものづくり人材育成

事業所では数多くの製品を生産しています。生産現場でのものづくりを支える自律した人材を育成するために、スキル・マインド・マネージメントの3つを基軸として、様々な研修カリキュラムを整備し、研修を実施しています。新入社員からベテラン社員まで幅広い層を対象にして、受講を取り進めています。

安全体験研修

2021年度に安全に関する体験研修が実施できる研修センターを新設しました。安全・基本行動教育の展開・正しい作業を繰り返し学ぶことで習慣化しています。



モーター巻き込まれ体験



ヘッド残圧水吹き出し程度体験



工具の使い方



水消火器取り扱い体験



階段昇降の体験



AED 体験



フランジ解放作業体験



落下衝撃測定

VR体験研修

労働災害対策として、安全知識や過去の災害事例を学ぶことは重要です。2021年に導入したVR体験装置による疑似体験を通して、その災害に至るまでの状況や過程およびその災害を体験することで安全意識の向上に努めています。現在、従業員の約半数が受講しています。



技術研修

第一線の社内講師による技術研修を開催しています。基礎・専門コースあわせて33講座を、基礎は毎年、専門は隔年で開催し固有技術の伝承ともものづくりの基本を学ぶ場としています。近年は自律的な学習促進のため研修の動画化を進めておりますが、一部対面で開催している講座もあります。

写真は保全関連の機材を会場に展示し、受講者が直接手に取って操作などができる内容の講座になります。



♥ 健康管理



新型コロナウイルス感染予防対策

新型コロナウイルスの幾度もの感染拡大と縮小の波が繰り返される中、従業員および職場内で感染予防対策を徹底し、安心・安全な職場環境づくりを図り、そして、生活にあたって必要不可欠な素材を、安定して生産・供給する使命を果たしてきました。

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけの変更に伴い、「新しい生活様式を含めた働き方」から「新たな健康習慣」感染対策の「5つの基本」の心がけに対応を変え、今後にも備え、安心・安全な職場環境づくり、安定して生産・供給を維持していきます。

KAITEKI体操・安全安心体力テスト

転倒しにくい身体づくりを目的に、①姿勢の改善②体重を支えるために必要な筋力の低下防止③ストレッチや筋力の向上④関節の柔軟性向上を組み合わせたKAITEKI体操を毎日実施し、年1回の安全安心体力テストをもって各自が転倒リスクを確認するサイクルを繰り返しています。継続して、向上が認められています。正しくKAITEKI体操を実施するため、職場設置のサイネージにて視聴しながらKAITEKI体操を実施する、個人がKAITEKI体操の解説動画を視聴し、体操のポイントを問うアンケートで確認するなど、我流化の防止を図っています。

出前教室

新型コロナウイルスの職場内感染拡大予防の観点から、従来の集合教育形態では実施が難しい中、熱中症予防・救急処置法の講義・実技指導など、基本的な感染予防対策を徹底して職場で、あるいはオンラインで、職場からの依頼に応じて出前教室を開催し、従業員の健康維持・増進に向けて取り組んでいます。

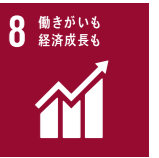
治療と仕事の両立支援

弊社は、病気を持つ・持たないに関わらず、みんながイキイキと活力高く働ける会社・職場づくりを目指しています。「治療と仕事の両立」が当たり前のこととして会社・職場に根づいていくよう、従業員に諸制度を周知し、希望する従業員に支援を行っています。加えて気軽に相談できる体制づくりを進めていくことで、治療と仕事の両立をしている仲間を受け入れ、共に働くことを通して多様性や様々な価値観に気づく、より豊かな企業文化の醸成を目指しています。

受動喫煙防止対策

2020年4月から実施している事業所内及び勤務時間内禁煙は、喫煙者本人・非喫煙者の理解・協力も得て定着しました。

👥 ダイバーシティ・多様な働き方推進



人権研修

各職場を中心にハラスメント等の各種人権研修を実施しており、2022年度滋賀エリアでは、延べ約1600名が受講しました。

また、人権加盟団体を通じて、人権全般にわたる情報収集や、社外の方との意見交換、人権担当者の育成など、積極的な活動を行っています。

障がい者雇用の推進

事業所では障がい者雇用の推進に向けて、様々な取り組みを行っています。障がいのある方一人ひとりの特性に合わせて書類の電子化、データ整理など事務作業の支援、清掃作業など、様々な作業に取り組んでいます。また、エコキャップ運動、事業所周辺の美化活動など、社会貢献活動にも積極的に参加しています。



書類電子化作業



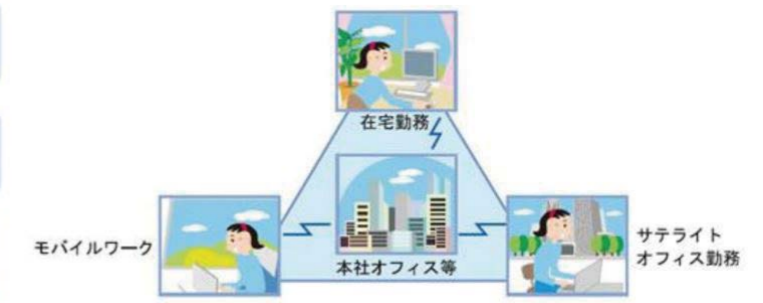
エコキャップ運動

多様な働き方の推進

場所を問わない働き方として、テレワークの活用により、働き方の選択肢を広げ、イキイキと働ける環境を創出しています。育児・介護との両立やその他プライベート事情との両立、通勤負担軽減など、当制度を有効活用することにより、多様な働き方を進めています。

※テレワークとは…
「情報通信技術を活用した、場所や時間にとらわれない働き方(日本テレワーク協会)」のことで、「tele=遠くで」+「work=働く」を合わせた造語です。

- ワークライフバランス**
 - ・仕事とプライベートがより柔軟に両立できるようになる。
 - 例) 通勤時間の短縮による時間の創出
 - 例) 仕事を早退しなくても、通院などができる。
- 通勤の負担軽減**
 - ・都市部の通勤混雑回避による身体的負担の軽減
- 仕事の効率化**
 - ・業務に集中して取り組める
 - ・テレワークに適した業務を切り出すことで、仕事の棚卸しや見直しのきっかけとなる



近隣学校の工場見学受け入れ

事業所では近隣の学校の工場見学を積極的に受け入れています。

小学生については世界に1つしかないオリジナルデザインのマイペットボトル作りを体験してもらい、化学に興味を持つきっかけづくりを行いました。

また、高校生については将来の就職観を持っていただき、仕事のやりがいや当社が社会でどのようなところに貢献しているのかを説明しました。



工場見学受け入れの様子

地元中学校の職場体験学習受け入れ

職場で働く人々の姿を間近に見て職業観や勤労観を養うことを目的に、近隣中学校の職場体験学習を受け入れています。短い期間にはなりますが、ものづくり現場の見学をはじめ、環境保全活動や研究所での分析業務体験など様々な業務を体験してもらいました。



職場体験学習

米川の治水事業に協力

米川の治水事業として、滋賀県、長浜市と協定を結び、長浜地区のグラウンドを遊水地として利用することにしました。

米川は市街へ向かうほど河川幅が狭くなり、過去には豪雨時に市街流域が浸水する被害が出ています。滋賀県が治水対策を進めるにあたり、当社のグラウンドの活用を検討され、それに連携して協力していくこととしました。

現在、具体的な計画の策定作業が実施されています。



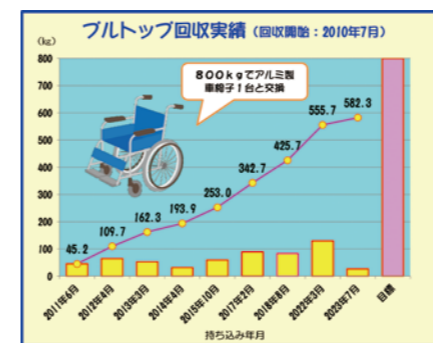
※遊水地のイメージ図です。計画により変更もあります。

社会貢献活動

滋賀エリアの横断サークルである「あゆっこ倶楽部(詳細は下部参照)」と「三菱ケミカル労働組合」が回収活動推進の中心となり、「エコキャップ回収※1」「古切手収集※2」「プルトップ回収※3」「ベルマーク収集※4」等の社会貢献活動を展開しています。

あゆっこ倶楽部では、回収率アップのためのPR活動などを行い、事業所内の活動の輪を広げ、社会貢献活動を盛り上げています。

- ※1 飲み終えた飲料PETボトルのキャップを集め、指定のリサイクル業者へ売却し、その収益でポリオ(小児マヒ)ワクチンを購入し、途上国の子供たちに贈る活動です。
- ※2 日本キリスト教海外医療協会へ送付し、郵趣家や切手商へ売却。国際保健医療協力活動(ワーカー派遣、奨学金、協働プロジェクト)のために役立てられます。
- ※3 飲み終えた飲料缶のプルトップを集め、リサイクルメーカーへ売却した収益金で車椅子を購入し、必要とされている施設に寄付する活動です。
- ※4 長浜市社会福祉協議会へ持ち込みし、地域のベルマーク参加学校へ寄付されます。



プルトップ回収実績
2010年7月(回収開始)~2022年度
これまで約580kgを回収しています



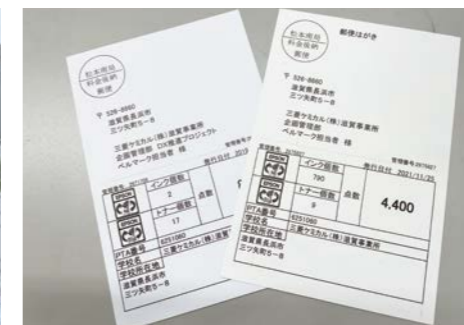
プルトップ回収



従業員から寄せられたベルマーク



トナー、カートリッジの回収(ベルマーク運動に参加されているメーカー品に限定)



トナー・カートリッジ分はベルマーク財団が呼びかけをされている「東日本大震災復興支援マーク」として寄付を継続しています



ベルマーク収集実績
2001年11月(回収開始)~2022年度
これまで約280,000点を収集しています

「あゆっこ倶楽部」とは

「あざやかに、ゆとりをつくりだし、工場(こうじょう)に輪を広げていこう」をコンセプトとし、「声掛け合って、みんなで作ろう 明るい職場」をスローガンに、事業所内のコミュニケーションを更に良くするため、事業所活性化につながる活動を実施している小集団サークルです。

捨てる前に気がついて!!
捨てればゴミ!
集めればボランティア!

あゆっこ倶楽部

社外コミュニケーション



近隣自治会との意見交換

毎年、近隣自治会役員の方々との意見交換会を実施しています。本RCレポートを用いて事業所の環境・安全活動等の取り組みの説明や事業所の紹介映像、ショールームでの製品説明を行いました。各自治会の活動状況をお聞きしながら、皆様と様々な意見交換を実施することができ、近隣各自治会との良好な関係を維持していくために今後も継続していきたいと思えます。



近隣自治会意見交換会

小学生版お仕事ノートへの作成協力

この冊子は長浜市・米原市で働く人たちの仕事を複数取り上げ、生徒さんが将来、どんな仕事をしたいのかを考えるヒントとなるものです。

2023年度は3、4年を対象に「お仕事ノート」が配布されました。当社としてもより多くの生徒さんに事業所を知っていただくために、当社の製品や仕事内容等の情報提供を行い作成に協力しました。



長浜ものづくりTECH2022への出展

長浜商工会議所主催の本イベントは湖北地域のものづくり企業が多数参加し、当社からも技術力や企画力のアピール、製品、サービス等のPRを目的に出展し、来場された方々や出展企業様と幅広い交流を行うことができました。

今後も地元企業の一社として、ものづくりの魅力発信や就労意識の向上に協力していきます。



大垣地区特集ページ

2023年10月1日より大垣工場と滋賀事業所が統合し、中日本事業所に名称を変更しました。ここでは大垣地区の歴史、概要、活動についてご紹介いたします。

ご挨拶

大垣環境安全グループの一同です。この度、滋賀の3地区と統合し、中日本事業所の一員となりました。これから、よろしくお祈りいたします。



大垣地区について

岐阜県大垣市は付近に揖斐川が流れており、地下水が豊富で「水都」と呼ばれています。豊富な水を利用できるこの地に会社を設立し、現在に至っています。

1928年 大垣地区(神田)で日本合成化学工業(株)として酢酸の製造を開始



大垣工場の豊富な水量



初期の大垣工場



竹籠巻きの酢酸瓶

1960年 大垣地区(本今)に大垣化成(株)を設立

1972年 大垣地区(上屋)でフィルムの製造会社として東海樹脂を設立

1996年 日本合成が東海樹脂を吸収合併

2005年 日本合成が大垣化成を吸収合併

2019年 三菱ケミカルが日本合成を吸収合併

2023年 滋賀事業所と統合し、中日本事業所へ



大垣地区について

大垣地区の説明

大垣地区(神田)



設立 1927年(日本合成化学工業)
従業員 205名

市の中心部に位置し、周辺には中学校、文化施設があります。環境対策を強化し、地域共存を目指しています。

大垣地区(本今)



設立 1960年(大垣化成工業)
従業員 86名

近隣の企業と隣接しているだけでなく、民家とも隣り合わせています。

大垣地区(上屋)



設立 1972年(東海樹脂)
従業員 31名

大垣市の南に位置し、田畑に囲まれています。周辺には高校があります。

環境施設について

神田

排水処理施設



事業所の排水は、滑性汚泥等にて処理を行い法令基準に適合した上で場外排水しています。

排水監視装置(西エリア)



雨水や冷却のみに使用した排水に異常があれば、堰を閉め排水は汲み上げる仕組みを運用しています。

総合排水路の堰



排水異常発生の際は、堰を閉止し流出を防止します。

油膜検知器



有機汚濁モニター

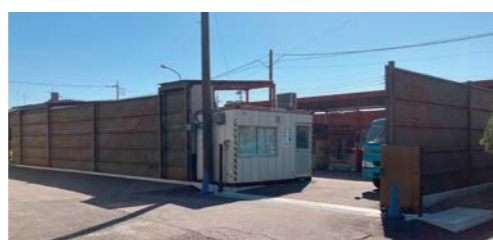


pH計



油膜検知器、有機汚濁モニター、pH計などを設置し、排水異常の早期発見に役立っています。

産業廃棄物置き場



産業廃棄物は法律に従って分別した後に委託業者で適正処理を行っています。

大垣地区が提供する主な製品



液晶ディスプレイ用偏光板向けフィルム

「OPLフィルム™」 ※大垣地区(神田)で製造

液晶テレビやスマートフォンなど、液晶ディスプレイの主要部材である偏光フィルムの素材として使用されています。



水溶性フィルム

「ハイセロン™」 ※大垣地区(神田・上屋)で製造

ポリビニルアルコールを原料とした水溶性フィルムです。液体洗剤包装や曲面転写印刷等の用途で使用されています。



アクリル系粘着剤

「コーポニール™」 ※大垣地区(神田・本今)で製造

貼り合わせるだけでなく、容易にはがすことのできる特性を活かして、保護フィルムや液晶フィルム等の粘着剤用途に幅広く使用されています。



大垣地区の環境安全活動、社会貢献活動



環境保全活動

2003年に環境保全活動の一環として本事務所前にビオトープを開園しました。地元の草木や土を使い湧水のある水辺を再現しています。2023年は蛍の幼虫を放流しました。無事にふ化して「ほたる祭り」を開催しました。



水路清掃

神田エリアの周辺水路（工場排水排出先）の清掃を実施。（写真は北水路清掃状況2023年5月18日）



社会貢献活動

2023年6月、長良川競技場で開催された「World Para Athletics公認 2023ジャパンパラ陸上競技大会」に大垣地区の他、滋賀及び三重等の事業所からもボランティアとして参加しました。



事業所・グループ会社紹介

三菱ケミカル株式会社 中日本事業所



従業員数：約2,100名（2023年11月時点）
敷地面積：757,000㎡（4地区合計）

長浜地区

（滋賀県長浜市三ツ矢町5-8）
高度な技術を用いて、プラスチックの特性を生かした付加価値の高い製品の製造や、技術開発、新商品開発に取り組んでいます。



浅井地区

（滋賀県長浜市大路町1700）
独自の技術開発により食品包装用フィルムや、バリア性に優れたPETボトル、プラスチックプレートなどを製造しています。



山東地区

（滋賀県米原市井之口347）
二軸延伸ポリエステルフィルムは、機械的特性・耐熱性・透明性などバランスのとれた特性を備え、ディスプレイをはじめ、太陽電池、医療器材、包装材など幅広い用途で使用されています。



※大垣地区については、P30～33の特集ページに詳細を記載しています。

年	主なできごと
1943	長浜で三菱化成工業(株)が合成ゴムの加工を開始
1946	天然ゴムの加工に転換のため、社名を長浜ゴム工業(株)に変更
1958	合成樹脂製品の製造を専業とし、社名を長浜樹脂(株)に変更
1962	社名を三菱樹脂(株)に変更
1974	長浜市大路町に浅井工場を開設
1978	ダイアホイル(株)を設立して米原市井之口に山東工場を開設
1992	独ヘキスト社と提携し、ダイアホイル(株)がダイアホイルヘキスト(株)へ変更
1998	三菱化学(株)がヘキスト社の保有株式を譲受、三菱化学ポリエステルフィルム(株)が発足
2008	三菱樹脂(株)、三菱化学ポリエステルフィルム(株)などが事業統合し、新生三菱樹脂(株)が発足
2017	三菱樹脂(株)、三菱化学(株)、三菱レイヨン(株)が統合し、三菱ケミカル(株)が発足
2018	長浜事業所、浅井事業所、山東事業所が統合し、滋賀事業所に改称
2023	10月、大垣工場を統合し、中日本事業所に改称

グループ会社

三菱ケミカルインフラテック株式会社 長浜事業所

住 所：滋賀県長浜市三ツ矢町5-8
事業内容：工業用プレート、樹脂フィルム積層鋼板、住宅資材用途の合成樹脂製品の製造

株式会社菱湖テクニカ

住 所：滋賀県長浜市三ツ矢町5-8
事業内容：製造に伴う作業請負業務

MCCアドバンスドモールドディングス株式会社 浅井工場

住 所：滋賀県長浜市大路町1700
事業内容：自動車、電子、情報関連製品、医療用成形部品等の開発・製造・販売

ジェイフィルム株式会社 長浜工場

住 所：滋賀県長浜市月ヶ瀬町1
事業内容：合成樹脂原料による包装資材の加工製造・販売

三菱ケミカル物流株式会社 中日本支社 大垣支店

住 所：岐阜県大垣市木戸町632-1
事業内容：物流全般

エムイーシーテクノ株式会社

住 所：岐阜県大垣市西崎町3-13
事業内容：各種電気設備・計装設備の設計から施工、機器の点検整備

ダイヤリックス株式会社 中日本管理センター 滋賀

住 所：滋賀県長浜市一の宮町1-6
事業内容：保険、ビジネスサポート

三菱ケミカル物流株式会社 中日本支社 滋賀事業部

住 所：滋賀県長浜市八幡中山町540
事業内容：物流全般

株式会社北菱モールド

住 所：滋賀県長浜市加納町205
事業内容：プラスチック成形用金型、口金の製造・販売

MCCトレーディング株式会社 滋賀営業所

住 所：滋賀県長浜市一の宮町1-6
事業内容：建築工事業及び付帯・関連する一切の業務

ジャパンコーティングレジジン株式会社

大垣工場・開発研究所(大垣グループ)

住 所：岐阜県大垣市神田町2-35
事業内容：合成樹脂エマルジョンとそのパウダーエマルジョンの開発・製造・販売